

# 「カッター乗船体験が参加者の気分の変化に及ぼす影響」

0914020 佐藤 勇希 (海洋スポーツ・健康科学研究室)

## I. 研究背景・目的

我が国において、カッターは明治時代に海軍兵員の基礎訓練用に使用され始め、現在でも商船大学や水産大学など船員養成のための諸学校、訓練機関では、必須教科としての端艇実習にカッターを採用しているところが多い。これまでに行われたカッターに関する研究は、青少年教育施設でのカッターの研修・訓練の教育的効果や意義に関するもの、大学サークルのカッター合宿における体づくりの効果の検証などがある。

体験的な乗船に関する調査は実施されていないことから、本研究では、カッター体験乗船時における参加者の試乗会前後での気分状態の変化及びカッター乗船後の感想について検討することを目的とする。

## II. 研究方法

本研究は、2012年11月2日から4日までの3日間実施されたカッター試乗会の参加者104名を対象として、試乗会前後で調査用紙に記入をしてもらった。試乗会の内容は1時間程で、ブリーフィングが10分、水上の移動や部員による漕艇の見学が30分、参加者の漕艇は20分程であった。調査には8項目4つの下位尺度から構成される二次元気分尺度(以下TDMS)と先行研究<sup>1)</sup>を参考として作成した9項目からなる質問紙を用いた。本研究では、活性度・安定度・快適度の3つの下位尺度について考察を行った。

## III. 結果・考察

試乗会参加者104名のうち、完全記入された91名のデータを用いて分析した。TDMSについては、活性度( $t=7.61$   $p<0.001$ )、安定度( $t=5.00$   $p<0.001$ )、快適度( $t=7.40$   $p<0.001$ )、覚醒度( $t=2.63$   $p<0.05$ )に有意な上昇が認められた。性別で比較したところ、活性度、安定度及び快適度において試乗会後男女ともに平均値は有意に上昇した。カッター乗艇経験別にみたところ、活性度・安定度・快適度の全ての下位尺度において未経験者・経験者ともに試乗会後の平均値は有意に上昇し、試乗会前・試乗会後ともに経験者の方が未経験者の値を上回った。

次に独自質問について、すべての項目を集計した結果、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の肯定的な回答の合計が50%を超えた。特に質問「もう一度カッター試乗会に参加したいと思う」と「チームワークが大切だと思った」においては、肯定的な回答が90%を超えた。

## IV. 結論

漕艇を含むカッター試乗体験会に参加することにより、参加者の性別や経験にかかわらず、気分状態における活性度、安定度、快適度が向上することが示された。

## V. 主な参考文献

- 1) 二川一成(2007)「カッター研修に関する教育的効果の検証」『オリンピック記念青少年総合センター研究紀要』Vol.7, P89-P97